

競技内容（屋外消火栓の部）に関することについて（R8）

○ 取りやめた内容

今大会より、待機線から集合線への移動及び指揮者の申告時の移動は取りやめとなりました。

○ 審査対象外とする内容

新実施要領「5実施手順」において、「(1)集合」及び「(2)操法開始の申告」は全ての動作を審査対象外とし、「(3)点呼、想定及び定位」のうちでは「点呼」のみを審査対象外としました。

○ 指揮者が搬送する第3ホースの設置方法について

延長をしなければ、ホースを置く向き等は一切問わない。なお、延長の準備は認める。

（例）延長方向に向け、ホースを立てて置く等（実施要領p3）

○ ホース結合の確認動作について

手元を引いて完全に結合されているかの確認動作を行って「よし」と呼称すること。

要領にも記載していることだが、完全に結合されていないと危険なため、改めて注意してください。

なお、ホースの結合確認と呼称がなかった場合、それぞれ別々に減点を取ります。（実施要領p3）

○ 「増加ホース結合」の操作開始時期について

第一標的の注水が完了し、指揮者の「増加ホース結合」の号令後、1番員の「よし」を受け、第3ホースを延長すること。

この時、1番員が「よし」の呼称を言い終わるまでは1・2番員は注水姿勢を保持する必要があります。

したがって、第3ホースを延長する隊員が、その間に第3ホース側に態勢をとること及び第3ホースに触れることは認められない。（実施要領p3記載）

○ 号令の表現について

審査対象となる号令「放水始め」「放水止め」「おさめ」については、意味が同等であり、かつ適切なタイミングで実施されていれば、「放水開始」「放水を始める」などの類似表現も認めるものとする。したがって、文言の違いのみを理由に減点することはない。（実施要領p3・4）

○ 手信号及び3番員の復唱について

指揮者は、「放水始め」「放水止め」「おさめ」と号令すると同時に手信号行うこと。

3番員は、指揮者の「放水始め」「放水止め」の号令に対して、正対して復唱すると同時に手信号を行うこと。

なお、手信号は基本の姿勢から行うものとし、放口弁等を持ったままの姿勢での復唱は「復唱」とは認めません。（実施要領p3・4）

○ 消火栓放口弁のロックピンについて

放口弁を閉鎖する際は、ロックピンを解除しなければ、放口弁が動かない。

この解除を忘れて放水が止められない場合は、危険な状態であるとみなし、審査員がロックピンの解除を指示します。

その際、操作上の失点6点（審査表No.35に該当）が加算されます。（複数回指示があった場合は、その都度加算されます。）（実施要領p4）

○ ホース及び筒先の搬送方法（収納時を含む）について

搬送方法は自由です。

○ ホース長さの確認について

競技に使用するホース長さは、全長（接手部分含む）が19m～21mの範囲内のものに限りです。

競技受付後、会場で審査員によるホース長さの確認を行うので、各チームは開会式までに確認を受けてください。（実施要領p6記載）

○ 収納の計時終了について

収納が完了し、

- ・指揮者は指揮位置に戻る。
- ・指揮者を除く全隊員が集合線にかかとを揃えて番員の順番に整列する。
- ・全員が火点側を向いて静止する。

以上の状態になった時点で、計時は終了となります。

※集合線に整列していても、番号順に並んでいなければ、計時は終了しませんのでご注意ください。

また、全員の集合が完了する前に次の行動（指揮者の点検）に移行した場合は、その時点で審査員が一時停止を指示し、操作上の失点6点（審査表No.35に該当）が加算されます。（実施要領p12記載）